

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	<u>30</u>

事業所番号	2570101374
法人名	医療法人 誠仁会
事業所名	ぐるーぷほーむ 木一
訪問調査日	平成 21 年 11 月 18 日
評価確定日	平成 21 年 12 月 7 日
評価機関名	NPO法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク滋賀福祉調査センター

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号欄が太枠の項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2570101374
法人名	医療法人 誠仁会
事業所名	ぐるーぷほーむ 木一
所在地	〒520-2276 滋賀県大津市里五丁目2-60 (電話)077-546-3074

評価機関名	NPO法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク滋賀福祉調査センター		
所在地	滋賀県大津市和邇中浜432番地 平和堂和邇店2階		
訪問調査日	平成21年11月18日	評価確定日	平成21年12月7日

【情報提供票より】(21年10月21日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年12月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤 12 名	非常勤 6 名 常勤換算 15.2 名

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋造り		
	1 階建ての	1 階 ~	1 階

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	65,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(150,000 円)	有りの場合 償却の有無	有(1年)	
食材料費	朝食	300 円	昼食	500 円
	夕食	600 円	おやつ	100 円
	または1日当たり		円	

(4) 利用者の概要(11月17日現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1	3 名	要介護2	5 名		
要介護3	5 名	要介護4	3 名		
要介護5	2 名	要支援2	名		
年齢	平均 88 歳	最低	74 歳	最高	98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	吉徳医院
---------	------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

湖南アルプスの麓の田畑が広がる中、里の集落に隣接した地に吉徳医院を核にした誠仁会の施設群がある。医療と福祉の拠点として地域に貢献し認められている。木一はその一部門としてグループホームを運営している。質量ともに十分な人的資源と素晴らしい設備を活用してレベルの高いサービスを提供しており、家族の満足度は高い。利用者は行動を全く制限されず広い敷地内、建物内でのびのびと暮らしている。家族の訪問は頻繁で利用者の外出の機会も多く利用者の地域社会とのつながりは十分に保たれている。自治会に入会できていない事が示すように、グループホームとして公式の地域連携が十分できているとは言えない。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の課題は地域密着の一点である。利用者や地域社会との実質的なつながりは問題ないが、自治会への加入や運営推進会議への地域、行政の参加などが実現できていない。といっても地域や行政と疎遠になっているわけではなく、地域の行事に参加したり大津市の担当課とは適度な連携を保っている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は職員会議で議論して課題を抽出している。最終はリーダーと管理者がまとめた。前回の自己評価の改善計画でも入浴支援等サービス向上の項目についてはできているが、地域・行政との連携関連はとくに進展はない。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議はほぼ隔月に開催し、参加者は利用者家族代表と事業所関係者である。メンバー構成は本来の会議の主旨を満足させるものではないが、家族の大半の希望もあって当面広げる意志は持っていない。議題は、医療体制、設備、外部評価、行事計画、終末期対応など利用者に関係が深い課題について突っ込んだ議論をしている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族の訪問が多いので、個々の利用者の体調や生活の報告と家族意見の聴取はその機会を利用している。訪問が少ない一部の家族には電話での対応になっている。全体にまたがる課題については運営推進会議や家族会の場で議論している。苦情の第三者機関への訴え方法は重要事項説明書に明記し説明している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会や老人会などに加入していないが、地域の行事には案内を貰い参加している。外出時、買物、理美容などの機会を利用者と地域社会との接触は自然にできている。幼稚園児の訪問を受入れ一緒に楽しんでいる。中学生の研修も受け入れてきたが今年がインフルエンザで学級閉鎖など問題になっていた時期だったので中止した。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	個々のニーズに応え質の高い医療と福祉サービスを提供する事により地域に貢献する旨の誠仁会の理念はあるが、木一独自の理念はない。多項目に亘るグループホーム独自の生活指針があるが、その中に地域連携の主旨は明文化していない。	○	利用者ができるだけ地域とかかわりながら生活するよう支援する事を含んだ木一独自の理念を職員全員で考えて欲しい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事務所には、利用者が模造紙に大書した理念を掲げている。管理者も職員も誠仁会で働くことに誇りを持ち理念の実践を心がけて、実際に人的にも設備的にも極めて質の高いサービスを提供している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会は住民票のある個人の加入が基本であり会員は一部の利用者に限られている。しかし地域の各種行事(例えば田上夏祭り)には案内を貰い参加している。幼稚園のクラスぐるみの訪問を受け入れている。今年の中学生の實習は新型インフルエンザの影響で中止した。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は両ユニットの全員会議で検討し、リーダーが案をまとめ管理者が決定した。前回からの課題である公式な面での地域連携は意識はしているが具体的な進展はない。実質面での利用者地域とのつながりを進めている。		今後は、職員一人ひとりがより主体的に自己評価の作業に関わるようにして欲しい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議はほぼ隔月に開催しているが、参加者は利用者家族と事業者側に限られ地域、行政の参加がない。家族側から当面は第三者を交えずに運営して欲しい、という要望もあり自治会などに働きかけていない。各回とも利用者に関係が深い課題について突っ込んだ議論をしている。	○	運営推進会議が設定された主旨は広い視野で運営全般を検討する事であるので、メンバーの中に地域、行政等を含む第三者を加えて欲しい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	大津市介護保険課の担当者には必要は報告を心がけていて、木一の特徴は理解して貰っている。医師会を通じて理事長に講師の依頼などもあるので、グループホーム職員もその手伝いをしている。市から依頼された介護相談員が月1回来所して見学や相談をしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の大多数は週1回以上訪問するので、その時に報告や相談をしている。2か月に1回程度の家族については電話での報告が多い。利用者個人別の状況を季刊の「情報連絡書」で報告している。訪問時に見て貰えるように本人や全体行事の写真アルバムを各部屋に備えている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	個別の要望は大部分訪問時に聞き取り対応している。全体の議論が必要な事については、運営推進会議で検討している。家族会を年2回開催している。相互の連携を大切にしているので家族の満足度は高い。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	退職者はほとんどないが法人内事業所間の異動は育成面も意識して行なっている。異動の際の引継ぎ期間は1か月を目標にしている。グループホーム内では利用者別担当は決めているが公平に誰とでも接してダメージを少なくする配慮をしている。異動は運営推進会議で家族に報告している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月1回テーマを決めて内部の勉強会を実施している。職員全員に介護福祉士やケアマネの資格取得を推奨していて、それぞれの目標は共有している。取得のための研修計画や費用は個人の責任で事業所は勤務日程の配慮をしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	当初は淡海グループホーム協議会に加入していたが事情により退会した。しかし、同業者の全体意向を取りまとめるなどの重要な会合には参加し、前は6名の職員が出席した。		このような交流は職員の視野の拡大にも有効だからもう一度正式加入して、できるだけ近隣の同業者とのネットワークを作って欲しい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(前文削除)最近ではデイサービスとショートステイ利用者がおやつの時など時々遊びに来て、馴染んだ状態を見極めて入居をすすめるケースが多くなってきている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者の今までの生き様や能力に尊敬の思いを抱いていて家族のような扱いで接している。最近95才で看取った女性は入所してから俳句を投稿し朝日俳壇に掲載されたり、ダンスが得意で最後まで背筋をシャンと伸ばして暮らしていたことに敬意を抱いている。職員に対して何かと気を遣ってくれる利用者もいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	できるだけ利用者の意向を聞いているが、難しい場合は家族に協力をもらったり、以前に本人や家族からこれまでの生活や好みを聞き取っていて、それを基準にどんな生活が好ましいかを推測してサポートをしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアプランは本人と家族の希望、生活歴、それまでに観測された状況などを基に、医師、職員など関係者の意見を入れ計画担当者が作成する。家族の確認を得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状況が変化した場合は、家族、医師と相談して計画を見直し、家族の確認を得ている。変化がない場合でも原則3か月ごとに現状を続けるかどうかを確認している。家族の同意の印もある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	個人的な買物、カラオケ、実家の訪問など要望に応じて付き添い送り迎えなどを行っている。医療連携体制については、正看護師の勤務の都合で今年から加算を取り下げたが、実質的な健康管理は従来通り直接主治医に相談し指示を仰いでいる。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は全員敷地内の吉徳医院になっている。吉徳医院以外の専門医への受診は、原則として職員が付き添いし、場合によっては家族も同行して貰っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族の要望があれば最後まで看取りを行なう方針である。基本契約とは別に終末期対応に関する契約書を取り交わしている。家族はこの方針を歓迎し安心している。この1年近くで3名を看取った。過去に葬儀を事業所で行なった例があり、現在も数名の利用者が木一での葬儀を望んでいる。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報保護や後見人制度に関する研修は、毎月実施する職員勉強会の中でテーマ設定して実施している。利用者に対する接し方には相手の立場を尊重する姿勢を保っている。介護日誌、個人記録などのファイルは事務所の棚に置いているが、職員が常時注意して問題がないようにしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	共用空間があちこちにありそれぞれ広く、利用者は1人または複数で好きな場所で思い思いに過している。職員は毎日レクリエーション担当を決め体操や音楽や遊びなど多彩な催しをしていてできるだけ参加するよう工夫しているが、体調などに配慮して無理に参加させるような事はしていない。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は法人全体で決め専用の厨房で調理している。個人の好み(たとえば朝はパン食)については希望を取り入れている。おやつは独自の手作りである。できる人は箸を配ったり片付けなど手伝っている。好きなものを買ってきて献立に加えたり、年に3~4回は外食を楽しんでいる。庭で焼き芋をすることもある。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は全員介護付きで午後が原則である。希望により2名は夕食の前後に入っている。体調にもよるが最低でも2日1回で、毎日入浴している人もある。10名以上入れる大浴場もある。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の好みや得意なことに合せている。小鳥や犬の世話、洗濯たたみ、手芸、書道、ぬりえ、絵手紙、百貨買物、カラオケなどである。職員が世話役となり卓球やボーリングゲーム、体操、音楽療法などにより楽しめる支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	できる限り外へ出掛けることを心がけ、誰でも週2回は外出する事になっている。散歩、買物、カラオケ、理美容など個人別のものと、行事としてドライブ、花見、花火、紅葉狩りや、外食などである。広い庭へは自由に出ることができ、揃って体操なども天気良ければ戸外でしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	拘束禁止は法人の基本方針であり、玄関やホールからの掃き出しを含め昼間施錠している所はない。利用者は事務所にも自由に入出入りするので、事務所内の薬品ロッカーだけは施錠している。職員が多い理由の1つは広い敷地内の見守りのためでもある。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災マニュアルと連絡網を完備し、緊急時には職員7名の携帯電話に自動通報する装置も備えている。自治会長には災害時の協力を依頼している。消防署の指導による消火訓練と夜間想定避難訓練を年にそれぞれ1回実施している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	定期的に各事業所を巡回し要望を聞いている栄養士が厨房の調理師を交えて2ヵ月に1回の給食会議で献立を決定する。盛りつけの量は個人ごとに変わっていて、摂取量は主食と副食に分けて10分比で記録している。水分摂取量の留意が必要な利用者に関しては継続的に記録管理している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレ、浴室は広く清潔である。玄関、居間、食堂などのほか、リクライニング椅子やソファがあるロビー、ピアノのある音楽室、堀炬燵のある和室などすべて広く、調度品も高級感がある。室内にインコやメダカと小型犬を飼っている。所々に観葉植物を配置し、壁には利用者の素人離れした書画の作品が飾ってある。広い庭を眺める事ができのびのびと過せる環境である。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	全て洋室タイプでトイレ付きの部屋(1室)以外は2坪ほどの専用のテラスが付いている。窓からの眺めも広々としていて快適である。使い慣れた家具や小物を配置しその人らしい居室の雰囲気を作っている。冷蔵庫を持ち込んで好物を買ってきて入れている人もいる。		